

神戸市の大阪湾岸道路西伸部の現場、阪神・淡路大震災の資料保管庫を視察しました。

大阪湾岸道路西伸部は、日本一、二番目の渋滞箇所を抱える高速道路をバイパスする重要な湾岸道路です。埋立地において既存の新交通システムの上を通り、さらに大型客船が下を通過できる高さを確保するため、非常に難度の高い工事となっています。現場では、整備に携わる方々から様々な技術や工夫、ご苦労についてお話を伺い、日本のものづくり力の基盤に触れた思いがしました。

阪神・淡路大震災の資料保管庫では、地震によって大きく損傷した高速道路の支柱や桁を目の当たりにし、改めて地震エネルギーの巨大さを実感しました。防災・減災と経済性をいかに両立させるかは難しい課題ですが、国民の命と暮らしを守るため、何としてもその解を探していかなければなりません。

日本国内でも有数の大規模プロジェクトの現場と、阪神・淡路大震災の教訓を後世に伝える資料保管庫を併せて視察できたことは、測量設計議員連盟としても大変意義深い機会となりました。



▲ARで何もない空間に完成後の高速の橋と記念撮影ができました



▲大変な難工事の現場にて。埋立地での工事
で杭は50m以上も打ち込みます



▲見せるといよりプロ向けの「記録」のための
資料館でした



地 元 活 動



▲つくば市の介護医療院竣工式典



▲古河駅前にある瀬麗拔さんで。民間職業訓練機関の支援に取り組んでいます。現場のご苦労を少しでも減らしたいです



▲燃えろ! 元気水戸まつり!! 水戸の盆踊り大会



▲大子町での常陸国YOSAKOI祭りにて



▲夏祭りの合間に八千代町土地改良の現場へ



▲理学療法士会総会。処遇改善対応について懸命に訴えています



▲結城市、久保田水門完成式典後の視察



▲経営者協会でご公需・働き方改革の改革について講演



上月りょうすけプロフィール

昭和 37 年生まれ／昭和 62 年 東京大学法学部卒・自治省入省／平成 17 ～ 24 年 茨城県総務部長、副知事／平成 25 年 参议院議員初当選
平成 29 年 農林水産大臣政務官／令和元年 参议院議員 2 期目当選／令和 5 年 経済産業副大臣／令和 6 年 党農林部会長／令和 7 年 7 月
参议院議員 3 期目当選／令和 7 年 10 月～ 党副幹事長、党税調幹事など

令和 8 年 9 月発行 討議資料



参议院議員の上月良祐です。日頃より大変お世話になっております。

特別国会閉会后、党農業構造転換推進委の江藤委員長、宮下総合農林政策調査会長と米国のカリフォルニア州とアイダホ州を訪問し、「食料安全保障に係る農業視察」を行いました。

その後、中小企業・小規模事業者政策調査会の地方キャラバンとして沖縄県を訪問し、測量設計議連では神戸市で最先端の高速道路建設現場等を視察しました。今回はそれら出張も含め、ご報告いたします。



カリフォルニア州サクラメントでの農業調査

まず、コメの大産地であるカリフォルニア州サクラメントへ。州産の1/4を扱う巨大なコメ販売協同組合では、乾燥・精米施設や実際の水田を視察し、現地の生産状況や課題について意見交換しました。「ミニマムアクセス米」の多くはカリフォルニア州産で、同州から輸出されるコメの約4割が日本向けです。現地では飛行機での直播や冷温設備なしでの保管など、規模や生産条件の極端な違いを改めて痛感しました。また、水不足問題も一過性のものであったようでした。日本のコメの生産コストは米国の約4.1倍ともされています。価格勝負が厳しい中、我が国のコメを守るため、的確な戦略を着実に実施していかななくてはなりません。



▲精米途中のコメ粒を視察



▲全て日本向けに輸出されるコメとのこと



▲様々な大きさにパッケージングしています



▲巨大な精米機械での精米過程



▲小売り用パッケージです



▲販売協同組合の皆さんと。後ろは工場のごく一部です



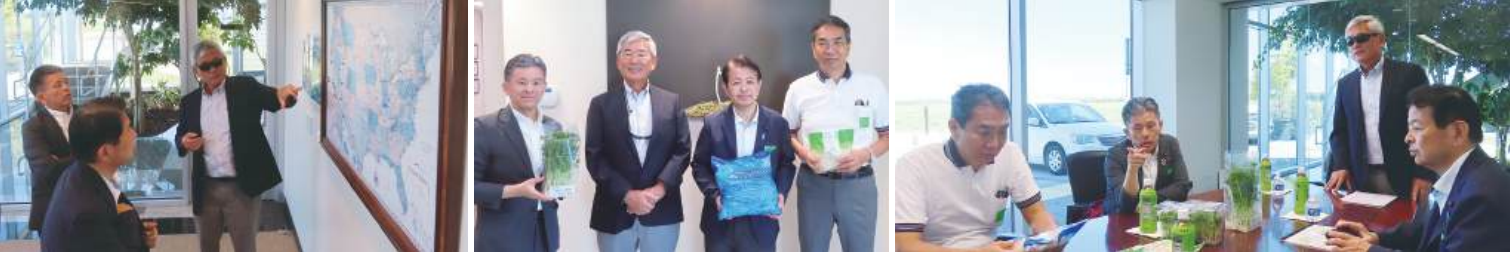
▲比較的小規模な農家でしたが、軽く一面10haはある圃場。種蒔きはやはり飛行機で、極端な高密植でした



現地で活躍する日系食品企業とも意見交換を行い、販路開拓などについて現場ならではの貴重なご意見を伺うことができました。

また、アジア系スーパーでコメや日本食材の売り場を視察。米国産「カルローズ」は約259円/kg、北海道産「ななつぼし」は約1,056円/kgと価格面の差は大きいです。党農産物輸出委員長の立場でも、大変考えさせられる現場でした。

その後、日本で培った技術力で「もやし」や「かいわれ大根」を植物工場で現地生産する日系企業、サラダコスモ社へ。生産システムや販売戦略について説明を受け、大きなシェアを獲得するまでのご苦労や工夫を聴取。特に印象的だったのは価格転嫁です。輸送費などの的確に転嫁し、賃上げにもつながっていました。



▲サラダコスモ社にて中田CEOと意見交換。賞味期限の短さと輸送距離の長さを克服するネットワークが素晴らしかった

アイダホフォールズでの農業調査

視察3日目は、全米最大のばれいしょ生産地であるアイダホ州へ。ポテト博物館で深い歴史に触れた上で、「ワダ・ファーム」の生産現場を視察しました。日本から3代前に移住してばれいしょ農場を始め、経営面積は約12,000ha (!)。巨大なスプリンクラーを遠隔操作し、円を描くように移動させながら散水し、広大な農地で様々な種類のばれいしょを生産されています。大量に収穫したばれいしょは、AIやロボットを活用した洗浄・選別・包装・出荷施設に持ち込まれます。見事なまでにシステム化、効率化が図られていました。

続いて、マッシュポテトの全米シェア約8割を誇るアイダホアン・フーズ社工場へ。ここでも巨大な集出荷、加工処理システムを目の当たりにし、米国農業の規模と効率性、そしてマーケットインの姿勢を実感しました。

夕方からは、現地の上院議員をはじめとする皆さまとも意見交換を行いました。



▲ワダ・ファームの集出荷施設にて



▲徐々に増えているという小粒品種の説明受け

▶アイダホ州上院議員、アイダホポテト委員会の方々と。農業政策や日米の農業を取り巻く課題等、様々な意見交換を行いました

▲(上)巨大なスプリンクラー
(下)ばれいしょ搬入用の巨大なトレーラー



▲ばれいしょの加工工場アイダホアン・フーズ社にて



▲くれぐれも土を持ち帰らないよう、農場に入る靴にはカバーをします



▲帰国後に開催された農林部会で今回の視察報告。今後に学びを活かします



▲アジア系スーパーにて。日本から輸出されたコメの価格などを見えています

中小企業・小規模事業者政策調査会 地方キャラバンin沖縄

事務局長として携わった政府への提言について内容や方向性をお伝えし、現場の声を伺うため、福田調査会長と沖縄県を訪問しました。沖縄経済は観光業の割合が高く、島しょ県のため様々な物資輸送に高いコストがかかるため、燃料価格の高騰は経営に大きな影響を及ぼしています。また、官公需（国や自治体などが行う工事・物品・サービスの発注）への依存度が極めて高い（全国2位）ことも沖縄の特徴です。

今回の訪問では、「よろず支援拠点（全都道府県にある無料経営相談所）」をはじめ、商工会議所、商工会、中小企業団体連合会、さらに「100億宣言」を行った企業2社を訪問しました。「100億宣言」とは、将来的に売上高100億円を目指すことを企業自らが宣言し、国などが政策で後押しする取組みです。現場では、商工会館の建て替えに対する支援、事業承継税制、円安対応など、様々な要望をいただきました。東京ではなく現場で直接声を聞くことは本当に大切です。地域の中小企業・小規模事業者が将来に希望や展望を持って事業を続け、成長していける環境づくりに取り組んでまいります。



▲骨太方針にも記載された「GW(ゲートウェイ)2050PROJECTS」。那覇空港をはじめとする地域開発構想について伺いました

▲中小企業3団体のトップの方々と意見交換。それぞれの団体にお悩みごとが。商工会館の建て替え支援について、永田町に戻って早速中企庁、総務省、内閣官房と協議を始めました

中小企業・小規模事業者政策調査会提言のポイント

世界情勢の変化、長く続いたデフレからインフレへの転換、円安による仕入れや生産コストの上昇など、中小企業を取り巻く環境が大きく変わっていることを踏まえ、今後の中小企業政策について提言を取りまとめました。

特に地方では人手不足が深刻になっており、これまでと同じやり方を続けるだけでは事業維持が難しくなっています。中小企業が「変化の時代」に柔軟に対応し、自ら成長できる強い経営体質をつくることが重要です。

そのため、企業の成長段階に応じて、「1億企業」「10億企業」「100億企業」の3段階に分け、それぞれに必要な支援策を整理します。また、労働生産性から「経営生産性」へと視点を高めること、即ち、毎年のPL偏重の経営から、財務基盤を強くし、会社の強みを活かし、社会や市場の変化に合わせて事業を見直しながら、会社の価値を継続的に高めていく経営への転換を促します。

こうした取組を通じて、中小企業が変化に負けず、チャレンジを通じ、持続的に成長できる環境をつくることを目指しています。



▲提言の概要はこちらの二次元バーコードを読み込みご覧ください